



西合志南小学校だより

西南小の風

【校訓】明るく かしく たくましく

学校教育目標：主体性と協働性を育み、夢の実現に挑戦する児童の育成



令和7年12月23日

第11号

文責 西村 英一

2025年、大変お世話になりました

保護者の皆様、地域の皆様には、いつも子供たちを見守り、応援していただいていますこと、本校の教育活動に対するご理解とご協力をいただいていることに、心より感謝いたします。

おかげさまで、本校職員一同、精一杯教育活動に取り組むことができました。そして、毎日の授業や見学旅行、校区探検、4年生の合唱発表、クラブ活動、持久走大会、集団宿泊教室、修学旅行等の様々な場面で、子供たちが友達とのつながりを深めたり、目標達成に向け努力をやり抜いたりする姿を沢山見ることができました。

12月25日（木）からは冬休みとなります。子供たちには、病気の予防や交通事故防止を心がけ、年末年始の伝統行事等にあたり、楽しい時間を過ごしてほしいと思います。

2025年（令和7年）、保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になりました。2026年（令和8年）もどうぞよろしくお願いいたします。

立派な門松を作っていました

12月20日（土）、美化委員会の皆さんが門松を作ってくださいました。門松づくりのご指導には、地域の方にご協力をいただきました。ありがとうございました。

まず最初は、事前に地域の方に用意していただいた竹を斜めに切ったり、切り口をきれいに削ったりしていかれました。参加していた美化委員さんやPTA役員さんの子供さんたちも製作の一翼を担いました。子供たちは興味津々の表情で「次は何するんですか？」と繰り返し尋ねていました。

1時間ほどすると、いよいよ切りそろえた材料等を使って門松を作っていきます。竹の高さをそろえたり、わらなわを巻き付けたりと皆さん和気藹々と作っていかれました。参加されていた方からは「初めて門松を作りました。」「わらなわの巻き数に意味があるですねえ。」等の声が聞こえてきて、親睦を深めながら楽しく活動されていることが伝わってきました。お正月を迎える準備が整ってきました。



「非認知能力」を高める関わり方4

「非認知能力」を高めることに有効な「共感力」について紹介します。「共感力」は、本校の校訓「明るく かしく たくましく」の「かしく（私は「人の気持ちを感じる力、命を守る力、学力」と捉えています）」に通じると考えています。

① 人の心の痛みを知る、想像する経験をする → 強くやさしい心を育むそうです。

人の痛みを感じられる人は、人の気持ちを理解する力（共感力）が高くなります。共感力を高めるための子供への言葉かけとしては、『もし、そんなことされたらどんな気持ちになる？』等と嫌な思いをした人の気持ちやダメな理由に目を向けさせることが効果的だそうです。「そんなこと言ったら、怒られるよ。」は良くないそうです。

約2500年前の中国の思想家「孔子」は、弟子の「子貢」から「一生守るべき徳目は何か」と尋ねられた際、「それは恕（じょ）である」と答えたそうです。「恕」とは、「思いやり」や「共感する心」を意味します。「孔子」は、「自分が望まないことを他人に対してはならない。これが仁の本質だ」としました。

② 失敗の経験をして、さらにそれを乗り越える経験を積む

→問題解決能力やセルフコントロール力、レジリエンス（困難を乗り越える力）が高まるそうです。

子供たちが失敗したり、嫌な思いをしたりしないように大人が先回りしてしまうとどうなるか……。大人が先回りしすぎて失敗や実体験を経験させないようにしてしまうと、子供たちは、他の誰かが同じような場面で困っていても共感できにくくなるそうです。さらに、困難を乗り越える力も育たないそうです。

失敗の経験から人生をより豊かに生きる方法、勉強や仕事での困難を自力で乗り越えていく力がつくと思います。

参考文献：非認知能力を育てる17の習慣（著者 西剛志氏 あさ出版）